

(様式1)

# 自己評価表

愛媛県立川之江高等学校  
学校番号(1)

教育方針	(1) 豊かな知性と創造性、果敢な積極性を育てる。 (2) 自他を敬愛する人権尊重の精神と誠実な人間性を育てる。 (3) 豊かな情操と感性、たくましい体力を育てる。 (4) 国際的な視野に立ち、変化に対応できる柔軟性を育てる。 (5) 地域社会に貢献する意欲と実践力を育てる。	重点目標	「社会に貢献できる人材の育成」 — 生徒一人一人が主役として輝く学校・ 地域に信頼される学校を目指して —
------	--	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	家庭学習習慣の確立	週当たり1年20時間・2年25時間・3年30時間 各目標時間の A: 100%      B: 90%~ C: 80%~      D: 70%~ E: 70%未満	E	11月調査(括弧内は6月調査の数値)で1年66%(61%)、2年60%(58%)、3年74%(68%)と達成度は低いものの、いずれの学年でも数値は上昇した。	生徒(特に家庭での学習時間確保が難しい生徒)に対して、自習室や職員室前長机における放課後の校内での自習や補習を促すとともに、学習時間に含めることを周知徹底する。 考査前や校外模試前の対策方法について、各教科担任からのアドバイスと、事後にその努力を褒めることを徹底する。
	分かる授業、主体的に学ぶ意欲を育てる授業の実践	授業公開、研究授業、相互授業参観等を通じた授業改善への取組 A: 100%      B: 90%~ C: 80%~      D: 70%~ E: 70%未満	A	100%の教員が、授業改善に取り組んだと回答した。 授業公開や、教科を超えた相互授業参観の実施、他校での教科横断型授業研修、STEAM教育授業研修等に意欲的に参加し、分かる授業の実施、改善に取り組んでいる。	次年度も本年度以上に、教科を超えた相互授業参観の実施や、他校での教科横断型授業研修、STEAM教育授業研修など積極的に参加し、分かる授業の実施のために日々研鑽に努めていきたい。
	AI時代に対応した学力の育成	読書力を伸ばすための授業内容の工夫、授業展開におけるICTの導入 A: 100%      B: 90%~ C: 80%~      D: 70%~ E: 70%未満	A	100%の教員が、授業内容の工夫、ICTの導入に取り組んだと回答した。 本校では本年度も、5分前登校を徹底させ、毎朝10分間の朝読書を行っている。特にコロナ禍以降ロイノートなどICTを授業に積極的に導入している。	来年度も情報処理課のリーダーシップの下、ICTを活用した授業研修会や郊外での研修会等に取り組み、授業にICTを積極的に活用したい。 また、今後生徒たちが、より積極的に図書館を活用するように、運営の改善や図書館の整理、利用促進等に努めていきたい。

進路指導	確かな学力の修得と進路実現	進学率100%、国公立大学合格者 <u>30名以上</u> A : <u>30名以上</u> B : <u>20名</u> ~ C : 15名~ D : <u>10名</u> ~ E : <u>10名未滿</u>	B	国公立大学20名合格。進学を希望する生徒は全員進学予定。	4年制大学への進学希望者が減少する中で、一年次より学ぶ意欲を高めながら、より高い目標に向かわせる指導を行う。
		就職率100% A : 100% B : 90%~ C : 80%~ D : 70%~ E : 70%未滿	A	就職希望者34名中34名内定。四国中央市を中心にすべての就職希望者について内定をいただくことができた。	進路講演会や応募前職場見学などの就職指導の見直しを行い、より充実させることで、早期の離職率の低下につなげていく。
人権教育・生徒指導	自他を尊重し、互いの人権を認め合う態度の育成	人権意識を高め、いじめを起こさないための取組：年間10回以上 A : 12回 B : 11回 C : 10回 D : 8~9回 E : 7回以下	A	人権・同和教育講演会やホームルーム活動、学校生活アンケートなど、合計12回以上実施した。人権作文や人権標語の作成は毎年恒例の取組になっており、人権意識の高揚を図っている。	いじめは、教職員の目が届かないところで行われることが多いため、生徒の変化の様子を敏感に感じ取ることができる職場環境づくりや、いじめの要因になりやすいストレスの多い環境を作り出さない学校づくりを行う。
		異校種間・異世代間交流学習：年間8回以上 A : 10回以上 B : 9回 C : 8回 D : 5~7回 E : 4回以下	A	「中学校での活動発表会」3回、「オープンスクールでの中学生との座談会」1回、「川之江先輩塾」4回、「保育体験学習」5回、「地域おこし協力隊と川高協力隊の協働学習」7回、合計20回実施した。	「中学校での活動発表会」「川之江先輩塾」は今年も好評であった。今年度より保育体験学習も復活した。次年度以降も様々な異校種、異世代交流学習に積極的に取り組んでいきたい。
	公共性とコミュニケーション能力の育成	交通事故発生件数：年間0件 A : 0件 B : 1~4件 C : 5~7件 D : 8~10件 E : 11件以上	C	交通事故が5件発生した。登下校時の事故であり、交通ルールの徹底、命の大切さをより伝えていきたい。	地域や警察と連携し、事故の多い箇所を把握し伝えていく。更なる交通安全教育と、命を守る教育の推進に努める。
		出前授業、出前講座（高大連携）：年間8回以上、遠隔授業：年間8回以上 A : <u>8回以上</u> B : <u>7回</u> C : <u>6回</u> D : <u>5回</u> E : 4回以下	A、E	川之江先輩塾や進路講演会の機会を利用して出前授業、出前講座を8回実施した。 遠隔授業は、対面での活動が増えたため実施する機会が減り4回であった。	出前授業、出前講座は進路希望別を実施をしている。実施の内容や時期を工夫して効果的な進路指導につながるよう努める。

特別活動	個性と能力を生かした心身の鍛錬	部活動加入率80%以上 A: <u>80%以上</u> B: <u>75%~</u> C: <u>70%~</u> D: <u>65%~</u> E: <u>65%未満</u>	A	全体加入率は81.5%で目標を達成した。入部状況の特徴としては、女子の加入率が男子よりも高くなっており、コロナ禍の影響で活動が規制されていたためか、運動部加入人数が減少している。	中学校との交流を積極的に進めること。また、部の活動状況等の情報発信については、ホームページだけでなく、インスタグラムといった他の方法も検討していきたい。
	地域に生き、地域を愛し、地域とともに歩む心の育成	ボランティア活動・地域行事への参加：年間平均1人2件以上 A: <u>2件以上</u> B: <u>1.5件~</u> C: <u>1件~</u> D: <u>0.5件~</u> E: <u>0.5件未満</u>	D	参加件数平均が0.6と、昨年を大幅に下まわった。今年はインターハイのような大型イベントがなかったことに加え、回復傾向とはいえ募集総数が300人弱と少ないため、依然として目標達成は難しい状況である。また、奉仕系よりもイベント系を希望する生徒が多いことも一つの原因である。	参加状況や活動状況については、生徒会新聞等による啓発活動に加え、生徒会主催のボランティアも企画していきたい。また、年度途中から、ボランティア募集等の情報に生徒がアクセスしやすいようフォームズでの募集に切り替えたので、来年度初めに職員・生徒に周知したい。
業務改善	働き方改革の推進とメンタルヘルスケアの充実	業務の効率化による勤務時間外労働時間の削減：昨年より年間20%以上削減 A: <u>20%以上</u> B: <u>15%~</u> C: <u>10%~</u> D: <u>5%~</u> E: <u>5%未満</u>	E	令和4年度と5年度の4月~12月までの勤務状況を比較した。1人当たり1か月の平均勤務時間外在校時間は、令和4年度が54時間5分、令和5年度が52時間28分で約3%減少であった。	勤務時間削減の目標達成はなかったが、2年連続で減少となり、一応の成果はあったと思われる。今後も更に業務の改善や、先生方への声掛けなどを積極的に行いたい。
		<u>心身ともに健康であるためのメンタルヘルスケアの充実</u>	B	学校評価アンケートにおいて、93.3%の教職員が学校への満足度が「そう思う」と答えた。ストレスチェック分析結果においても「上司や同僚からのサポート」は高く、職場の支援体制は良いと評価できる。	今後も、テレワークや年次有給休暇の取りやすい職場の雰囲気づくりに努めたい。また、職場環境の改善にも努めていきたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。